

（公財）中村元東方研究所／東方学院

東方だより

令和4年度前期号（通号第40号）

〒101-0021
東京都千代田区外神田 2-17-2
延寿お茶の水ビル 4階
TEL：03-3251-4081
FAX：03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<https://www.toho-gakuin.org>

新任理事長からのご挨拶

藤井教公理事長



今春より前田専學先生が中村元東方研究所の名誉理事長に就任され、私が新たに研究所理事長、東方学院学院長に就任いたしました。この誌上をお借りして自己紹介を兼ねて就任のご挨拶を申し上げます。

私の略歴を申し上げますと、私は昭和23年に静岡県の日蓮宗寺院の長男として生まれ、地元の小学校を卒業後に上京し、現在の自坊である東京の寺の先代に弟子入りし、小僧生活をしながら中学、高校、大学、さらに大学院へと進みました。

私が専任の職を得たのは平成元年、浜松市に新設された常葉学園浜松大学という大学で、いわゆる一般教育の「哲学」の担当です。私の専門領域は中国仏教でしたが、当時、自分の専門で職を得ることは極めて稀でした。これは今も余り変わらないようです。ここで教授に昇任、計7年間勤めた後、平成8年に北海道大学文学部に教授として転任しました。後に大学院担当となり、16年間勤めて平成24年に定年退職。同時に現在の東京都文京区にある国際仏教学大学院大学に勤めることとなり、現在、学長職を勤めております。

前田専學名誉理事長は中村元博士の直弟子の一人として博士の東京大学定年退官の跡を継いで東京大学に赴任され、インド哲学の研究と教育

目次

理事長のご挨拶	1・2頁
役員ご紹介	2頁
芳名録	3頁
講師・研究会員・研究員の声	4～6頁
行事報告・今後の行事	7・8頁
新刊紹介	3・5・7・8・9頁
事務局通信	10頁



に意を注いで来られました。東京大学退官後に武蔵野女子大学（現武蔵野大学）に移りましたが、その間もそれ以降もずっと中村元東方研究所と東方学院の運営に関わってこられ、平成19年に研究所理事長、東方学院長に就任され、現在に至りました。

ほぼ半世紀に亘る研究所と学院の歩みの概要を振り返ってみますと、基本となる組織体は、「財団法人東方研究会」から「特定公益増進法人東方研究会」へと移行し、そして平成24年には「公益財団法人中村元東方研究所」として認可されました。また、同年に中村元博士生誕百周年を記念して博士の誕生の地、島根県松江市に安来の清水寺、清水谷善圭貫首を中心とする有志の方々の努力によって中村元記念館が創立されました。この記念館は松江市八束町にある大根島のほぼ中央に位置し、近代的で明るい建物の二階に、復元された先生の書斎と研究室、3万冊を超える先生の蔵書を収納した図書館があります。またこの記念館を活動の拠点として、NPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所が創立され、研究活動と同時に一般への普及活動として、東方学院松江校が開校されました。

皆さんご承知のように、東方学院は、誰でも学べるインド哲学・仏教学のモットーの下、中村元博士の昭和48年の開設以来、東京本校、関西校、中部校、さらに近年の松江校へと拡大し、研究会員の数もコロナ禍ではありながら250余名以上を数えます。

さらに来年2023年には東方学院創立50周年を迎えます。研究所では50周年記念事業として現在、『東方学院50年誌』の編集刊行、『中村元「決定版」選集』全40巻のデータベース化事業などを（次の頁へ）

鋭意推進中です。

なお、勝れた業績を有する研究者に対する顕彰事業として昭和54年以降、「中村元東方学術賞」を設けて顕彰してきましたが、それが今年度で第32回目の授賞となります。また若手の有望な研究者に対しては「中村元東方学術奨励賞」を設けて顕彰し、さらなる研究の進展を奨励していますが、これも今回で8回目となります。

以上概要を述べましたが、中村元東方研究所、東方学院がここまで発展拡大してきたことは、中村元博士、博士没後の第2代理事長中村洛子ご令室、三枝充恵第2代学院長、そして前田専學第3代理事長・学院長の諸先生方、その運営を担ってこられたすべてのスタッフの方々、理事、評議員、維持会員、賛助会員の方々の惜しみないご尽力ご助成の賜であると認識し、今後、その運営維持、発展に努めることを心に刻み、精進したいと思えます。どうぞ長い眼でご支援、ご助力を賜りたくお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。



役員ご紹介

中村元研究所との関わり

神田明 評議員



中村元東方研究所が創立してまもなく、会員として関わらせていただきました。『中村元選集』32巻と別巻8巻を合わせた全40巻は、中村先生の主要著作の集大成であり、春秋社としても大変大きな仕事をさせていただきました。

計画につきましては、スケジュールリングと具体的内容にかなりの時間を要したうえ、実行にも多くの時間を費やしてしまいました。巻数が多いため、実施段階で中村先生のご多忙から相当な時間を要することになり、先生に著作集の早急な完結をお願いをしたところ、「私は今、春秋社の会社の牢獄に閉じ込められています」というお言葉を申され、皆で笑話し「執筆を急ぎます」とお返事をくださいました。

無事に著作集が完結し、そのお祝いにご自宅に伺った際、すでに先生は病床に伏せられ、なかなか大変な状況でありましたが、無理して出てきてくださり、完結を喜んでいただきました。

ました。それからしばらくしてお亡くなりになりましたが、その知らせはとても辛く、関係者のなかには「完結をしない方が良かったのではないか」との声があつたほどでした。

二代目理事長、奥様の中村洛子先生は、医者であられたので、ご苦勞をされながら職務を果たされました。

三代目理事長の前田専學先生は、東方研究所の本来の目的に沿って精力的に組織運営をされ、現在の研究所の基礎づくりをされました。その過程では多くの問題があつたことと思われませんが、常に冷静沈着であらゆる点に目を配る姿勢を貫かれておられました。中村元先生の故郷、松江にNPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所が開館されると、松江と東京とを学術研究を通じて交流をはかるなど、多くの人に講座を開いて学びの機会を増やしていきました。

こうした推進的な動きもコロナによって止まってしまったかのようですが、やがてコロナが収まったところで来年2023年には、東方学院創立50周年を迎えられますので、新しい第四代目の理事長、藤井教公先生のご活躍が期待されます。

かんだ あきら

1936年生まれ。

慶應義塾大学経済学部卒業。
(株)春秋社代表取締役社長。

令和4年度芳名録（五十音順・敬称略）

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和4年9月10日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 石上和敬 宇杉真 小笠原勝治 川崎寿子 川崎大師平間寺 来馬明規 高應寺（三友健容） 宗教法人西来寺 史跡足利学校事務所 釈悟震 株式会社春秋社 淳心会（日野紹運） 末廣照純 浅草寺 高橋堯英 高松孝行 多田孝文 中央学術研究所 トヨタ自動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 念法真教金剛寺（桶屋良祐） 身延別院（藤井教公） 公益財団法人仏教伝道協会 法恩寺（藤原浄峰） 法清寺（奈良修一） 前田專學 前田式子 松久保秀胤 三木純子 水野善文 学校法人武蔵野大学 薬王院 吉田宏哲 渡邊信之 渡邊隆生 株式会社山陰中央新報社

賛助会員

秋葉佳伸 阿部敦子 栗野芳夫 飯高淑子 石井勝彦 井上和子 石井敏明 今西順吉 入井善樹 石上智康 白井ふじ子 遠藤康 大井玄 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 岡田真水 岡田行弘 緒方康信 桂紹隆 菅野博史 岸實瑩 北村彰宏 木村清孝 三石造形芸術院 倉田治夫 黒田大雲 小林和子 小林守 小峰啓誉 古村けさじ 斎藤明 齊之平伸一 佐久間留理子 櫻井瑞彦 櫻井隆広 桜井俊彦 佐藤行教 慈光院（戸田忠） 真観寺（中村重継） 末木文美士 須佐知行 鈴木忠一 鈴木勇介 関戸堯海 高橋審也 田上太秀 武田浩学 立花ひろ子 田中勝洋 田中ケネス 田丸淑子 千葉よし子 鶴谷志磨子 天寧寺（永江雅邦） 當間哲也 公益財団法人東洋哲学研究所 一般財団法人徳育経営研究所 戸田裕久 鳥山玲 中谷信一 中村行明 西内之朗 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ禅道院 長谷川恵子 長谷川善永 畠中光亨 花岡秀哉 馬場孝至 羽矢辰夫 浄土真宗東本願寺派山本東本願寺（大谷光見） 引田弘道 一月正人 平井恭子 笛木敬代 福重利夫 福留順子 福原正直 藤井知興 藤田宏達 宗教法人法雲寺（水谷浩志） 寶幢院（原隆政） 保坂俊司 堀江順司 堀越教之 松本知巳 三木保 水谷俊一 宗教法人密蔵院（山口正純） 三友量順 宮元啓一 森祖道 宗教法人薬師院（松原光法） 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 桂徳院（山本文溪） 好井瑞院 由木義文 渡邊寶陽 和田壽弘

ご寄付

岡村光展 株式会社山陰中央新報社 釈悟震 株式会社春秋社 田辺和子 比良竜虎 松久保秀胤 御園生妙子 三友健容

東方学院創立50周年記念事業ご寄付

石上善應 石上源應 龍口明生 佐藤恭子

東方学院

多くの方々の温かいご理解とご支援によりまして、公益財団法人中村元東方研究所は去る2020年11月、東方学院は2023年4月に、それぞれ創立50周年を迎えようとしております。そこで、来る2023年度に東方研究所／東方学院の50周年を併せた記念誌の刊行および記念行事を予定しております。他方、新型コロナウイルスをめぐる難儀の世相におきまして、皆様厳しい状況を余儀なくしておられることと拝察し、同実行委員会では当該行事のための経費を最小限に抑えて遂行すべく事業の見直しを図っている現状でございます。このような状況にもかかわらず、中村元先生の御雄志の継承と存続のために、当該記念行事遂行にご賛同下さる方々からの御芳志を頂戴いたしましたこと深く御礼申し上げます。

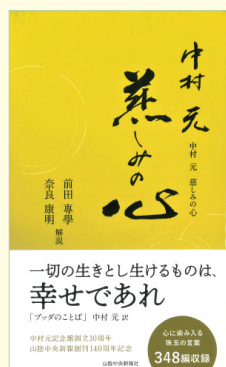
新刊案内

前田專學、奈良康明 他著『中村元 慈しみの心』

山陰中央新報1面に毎日掲載している企画「中村元 慈しみの心」の2015年11月1日から2016年10月31日までの348編をまとめたもの。ブッダの言葉をはじめ、名僧、經典など幅広い典拠から慈悲と生きる知恵に満ち、明日への糧となる至言を解説。

単行本：368頁
出版社：山陰中央新報社
発売日：2022年4月16日

ISBN-13：978-4879032522
言語：日本語
定価：本体1,540円（税込）



東方学院

講師ご紹介

石井公成 講師

（東京本校）

『正法眼蔵』をめぐる驚き



大学浪人の時、予備校の国語の先生が、交通事故で幼い娘を亡くし

た若い父親が抗議のため、交差点の真ん中に車を止め、ドアに鍵を掛けて道元の『正法眼蔵』を読み続けていた、という話をしたのがきっかけで、『正法眼蔵』を読んできました。その頃、刊行されて話題になっていった岩波の思想大系本です。

いや驚いたの何の。私は新書などは四十分くらいで読んでしまうのに、『正法眼蔵』は上巻だけでふた月くらいかかり、しかも全く理解できませんでした。一年くらいしてまた読んでみたところ、「月光が僅かにさしこんでくる静かな夜だった、という話だったな」などと覚えていたので、またたまげ

ました。理解できないのに、文を読むと「そうそう、こういう表現だった」と思い出せる文章に出逢ったのは初めてでした。

ただ、大学院では西有穆山禪師の『正法眼蔵啓迪』を読んでみたものの、基礎研究として華嚴思想を学びました。以後も様々な分野に手を出しており、親しい人には、「私は文学と芸能が本業。ライフワークは東洋近代史」などと言っています。ただ、結婚して家内の実家に行ったところ、近くにこの地が生んだ偉人として穆山禪師の銅像が立つ西有公園があり、菩提寺の開山も穆山禪師でした。さらに、駒澤大学を定年退職する直前に、大学図書館で忘れさられていた陸鉞巖の『正法眼蔵』の漢文訳本と生原稿を発見し、論文を書きました。『正法眼蔵』については、まさに驚きの連続です。



いしい こうせい

1950年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科単位取得退学。博士（文学）。現在、駒澤大学名誉教授。専門はアジア諸国の仏教と文化。主著は、『華嚴思想の研究』『東アジア仏教史』など。

加藤隆宏 講師

（東京本校）

インドとは何か



インドと聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？

ガンジス川で沐浴をする人々、口髭を蓄えた修行者が森の奥で瞑想にふける様子、タージマハルやアジャンタ・エローラ遺跡などといった世界遺産の数々。あるいは、色鮮やかな民族衣装、スパイスの香り豊かなインド料理、アーユルヴェーダやヨーガといった健康維持法などなど、異国情緒あふれる人々の生活や文化を思い浮かべる人もいるかもしれません。「インド思想」や「インド文化」を冠した講義を担当するようになってから、このよう

なインドの様々な顔の奥底にあるものの、「インド的なもの」の本質とは何か、そもそも、そのような「インド的なもの」は存在するの

のか、ということを考えるようになりました。

私はこれまで、広範で深淵なインド思想の中でも特に古代インドの聖典『ウパニシャッド』の解釈学の流れを汲むヴェーダーンタ思想を中心に研究を行ってきました。ヴェーダーンタはインド思想史上重要な位置を占めており、ヒンドウの精神文化のバックボーンとなっているといっても過言ではありません。ヴェーダーンタの思想を深く学ぶことで、私なりに「インド的なもの」を追いかけました。

東方学院では「インドの思想と文化」を担当させていただきながら、インドとは何かということを会員みなさんとともに問い続けていきたいと思っています。



かとう たかひろ

1973年名古屋市生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得退学。2003年～05年までインド・ブネー大学サンスクリット学高等研究所、06年～12年までドイツ・マルティンルター大学に在籍(Dr.Phil)。マルティンルター大学講師、中部大学准教授等を経て2018年より東京大学准教授。専門はインド哲学、ヴェーダーンタ思想の解明。

東方学院
研究会員の声

青柳静哉さん
(東京本校)

仏教の学びに感謝
して

私は、2018年度から、東方学院で学んでいます。受講のきっかけは、中村元先生のDVD「中村元 ブッダの人と思想、こころの時代―宗教・人生―、全6枚」を購入・視聴し、その中で、当学院を知ったことです。

本学院受講までは、仏教関係を少しかじっただけでしたが、全体的なことは皆目わかりませんでした。そのため、仏教を基本から知りたいと思い、前田専學先生の「仏教入門」を受講、本講座の3年間で、『ダンマパダ』（中村元著）、『スッタニパータ』（中村元著）、『ブッダ』（前田専著）を学ばせていただき、これにより、仏教の概要を理解させていただきました。なお、講座終了時に、インド料理店で、前田先生を含めて食事会が

開催され、クラスの皆様と交流を深められたことは楽しい思い出です。

今年度は、多数の仏教經典の概要に関する、釈悟震先生の講座「仏教聖典へのいざない」（中村元編著 『仏教經典散策』）を受講しています。

今後は、これまでの講座の書籍・資料を読み直し、仏教への理解を一層深めたいと考えています。当学院で仏教関係の学びができることに感謝しています。（あおやぎしずや）



東方学院とわたし

千葉啓子さん
(東京本校)

ヨガをしていたため、『ヨーガ・ストトラ』にふれたいと思います、2013年より有賀弘紀先生の「ヨーガストトラ」を受

講致しました。その後黒川文子先生、釈悟震先生、宮本久義先生のクラスを受講しました。今は林隆嗣先生の「パーリ語文献講読」と、勝本華蓮先生の「『テーリーガーター』を読む」と「ブッダとその教え」を受講しております。

「パーリ語入門」で初めて原始仏教という言葉を知り、『尼僧の告白 テーリーガーター』を読みました。様々な状況にある女の人達が尼僧になり、安らぎを得て生きていく様子に関心をもちました。また関西校にて『テーリーガーター』を読むの教室があることを知り、受講しております。

林先生には何回も似たような質問をしても穏やかにお答えを頂き、勝本先生には勉強不足の質問にも関わらず、親切に答えて頂き、楽しく続けることができ、感謝しております。（ちばけいこ）



新 刊 案 内

中村元記念館東洋思想文化研究所編

『はじめのはじまり』

インド哲学・仏教学者「中村元」博士の少年時代の作文集

島根県松江市殿町に生まれた中村元博士。幼少期をいかに学び、過ごしたのか…

「東洋思想の世界的権威」「知の巨星」と称された博士が関東大震災、世界恐慌、満州事変と、世界が目まぐるしく変わっていった少年時代（12歳～20歳の頃）に書いた作文を掲載。



単行本：142頁

出版社：ハーベスト出版

発売日：2022年3月1日

ISBN：978-4-86456-415-1 C0037

言語：日本語

定価：1,100円（税込）

研究員の声

東海林克也 専任研究員

「神仏研究と私」

今年度より専任研究員として就任致しました東海林克也と申します。



神仏の研究を志すようになった理由は幼少期からの環境にあります。祖父母の家では神棚と仏壇が同じ場所にあり、土産物を頂いた時には神仏にお供えしてから頂くのが普通でした。小学校はカトリックの学校で学ぶという宗教的環境の中で育ちました。父は仏教文学の研究を行っていた時期もありました。その影響で日本文学を学ぼうと大学のパンフレットを眺めていた時に就職先「神社」というページに目が留まりました。面白そうだなと思い受験した結果、神道を学ぶことになり、卒論では日本文学の視点から「神仏習合」をテーマに執筆しました。卒業後、神社に奉職するのですが、よく

「社会人になると勉強したくなる」といわれるように、もつと幅広い視点から神仏習合の周辺を勉強・研究したいという思いに駆られ大学院へ進学しました。

大学院時代は「神仏習合」を学際的（日本文学・社会学・歴史学など）な視点から研究を進めました。現在の「神仏習合（思想）」研究はある程度円熟している分野でもありますが、一方で課題も残されています。その中で私は特に「民衆」を中心としながら民衆が神仏に求めた願い、神仏習合（思想）を民衆がなぜ受け入れたのか、という部分について学問を横断しながら研究をしています。

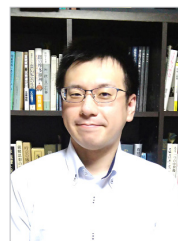
一般家庭出身の自分が神主（神職）になり、インド学・仏教学・東洋思想を中心とする中村元東方研究所で研究員になるという不思議な経歴ですが、今後ともよろしく願っています。

しょうじ かつや

1986年宮城県仙台市生まれ。國學院大學神道文化学部卒業、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科前期課程、同後期課程修了、博士（社会デザイン学）。学部卒業後、仙台東照宮へ奉職。その後、横浜市内の神社で助勤神職を歴任。

板敷真純 専任研究員

躍動する「信」求念の集団・親鸞と弟子たちの世界



「親鸞は弟子一人ももたずさふらふ」。

この一文は鎌倉時代の親鸞が残した言葉です。親鸞は自分には弟子は一人もいないと説きました。けれども親鸞を慕う人々は数多くいました。一説には453人もの面授の弟子がいたと言われています。その後親鸞の門流は関東から全国各地に勢力を展開しました。

私の研究は親鸞の弟子たちの思想・活動について追求することです。親鸞の時代は現代と同様に、疫病が全国で流行し自然災害が多発していました。そのような時期に親鸞や親鸞の弟子たちはどのような考えを持っていたのでしょうか。彼らの生き様から現代の私たちの生きるヒントを探ります。中村元先生は親鸞について次のように説いています。「親鸞にとって

は純粹の「信」以外にはいかなる儀式も救いのために必要ではなかった。（中略）この点で、親鸞はほぼ同時期の、他の諸文化圏のどの宗教家よりも、信に徹底していたといえるであろう。」（『中村元選集「決定版」中世思想』）

ここで注目すべきは、親鸞の弟子たちも親鸞の「信」の思想を継承しようと努めたことです。例えば河和田唯円の『歎異抄』には、関東の門弟たちが親鸞の教えを聞きに命がけで上洛したと記しています。また親鸞の妻の恵信尼の存在は、特に後世に影響を与えたと考えられています。彼女が記した『恵信尼消息』には、彼女の主体的な浄土信仰が見られます。

今年に入つてTVなどで『歎異抄』の番組が放映され、親鸞の弟子たちの生き様が再度注目されています。弟子たちの躍動の余波は、まさに今現在まで届いているのです。

いたじき ますみ

1989年東京都生まれ。東洋大学文学部インド哲学科卒。同大学院文学研究科インド哲学仏教学専攻博士後期課程修了、博士（文学）。日本中世仏教。最近の論文は「真宗における妻の役割とその変遷—真宗史料に見る「坊守」の活動を中心に—」（『東アジア仏教学術論集』9、2021）。

行事 イベント 報告

令和4年2月15日（火）開催

新春研究発表会

オンライン・対面の併用にて開催

於：山の上ホテル 銀河の間



下田正弘教授

恒例の新春研究発表会が、本

年度は、オンラ

イン・対面の併

用にて、山の上

ホテル・銀河の

間で午後4時半～午後6時に開催

されました。講師は、令和3年度

中村元東方学術賞受賞者の下田正

弘氏（東京大学教授）です。講演

は「大乘仏教の起源を再考する」と

題し、大乘仏教の成立をめぐる

研究動向の紹介から、過去の研究

の問題点をあぶりだし、最新の学

説を唱えるという、刺激的な講演

となりました。講演後には、聴講

者から講師への質問が、オンライ

ン・会場の双方から多数寄せられ、熱のこもった応答が行われました。出席者はオンライン52名・対面32名、合計85名を数え、盛会のうちに円了しました。



左から高橋堯英司会・釈悟震総務・藤井教公理事長・下田正弘教授



令和4年7月2日（土）開催

令和4年度研究員総会

於：身延別院



令和4年度研究員総会が、7月2

日（土）午後2時

～午後4時、身延

別院（中央区小伝

馬町）にて開催さ

れ、16名の専任研究員が出席し

ました。2年ぶりの対面開催にな

ります。藤井教公総括研究員の開

会挨拶および総括研究員就任のス

ピーチに始まり、執行部から研究員に対する事務連絡等が行われました。また、後半では、2022年度就任の専任研究員による研究発表会が行われました。まず、板敷真純研究員による「中世真宗における親鸞門流の形成とその展開」、東海林克也研究員による「神仏習合研究とその周辺」が発表され、様々な研究分野の先輩研究員による質問と議論が活発に展開されました。



質疑応答の時間



集合写真



新 刊 案 内

宮元啓一 著

『新訳 ミリンダ王の問い』

ーギリシア人国王とインド人仏教僧との対論』

紀元前の仏教・インド哲学の古典的名著『ミリンダ王の問い』をさらにわかりやすくし、一冊にまとめた新訳決定版。パーリ語原典からの全訳。

単行本：416 頁

出版社：花伝社

発売日：2022 年 2 月 21 日

ISBN-13：978-4-763-40998-0

言語：日本語

定価：3,520 円（税込）



令和4年9月19日（祝・月）開催中止

東方学院・酬仏恩講

合同講演会

於：奈良・薬師寺

第22回東方学院酬仏恩講合同

講演会が、奈良・法相宗大本山薬師寺まぼろば会館にて午後1時半～午後4時まで行われる予定でしたが、台風14号が本州に接近した為、やむなく中止となりました。

【今後の行事のご案内】

★「第32回中村元東方学術賞」および「第8回中村元東方学術奨励賞」授賞授賞式

日時：令和4年10月7日（金）

午後5時～午後6時半

会場：インド大使館

★新春研究発表会

日時：令和5年2月14日（火）

会場：東京ガーデンパレス

講師：未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ申し上げます。

2023年度東方学院の

受講申し込みについて

2023年度の「東方学院のてびき」は2022年12月20日頃完成予定。

受講申し込み受付は、2023年1月初を予定しております。詳細は決まり次第に、ホームページ等のご案内申し上げます。

東方学院専用ホームページ

<https://www.toho-gakuin.org/>



新 刊 案 内

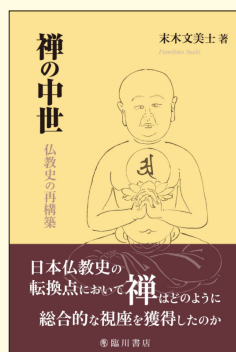
末本文美士 著

『禅の中世 仏教史の再構築』

南都焼討を乗り越えて、復興へ向かおうとする日本仏教史の転換点において、禅はどのように総合的な視座を獲得したのか。『中世禅籍叢刊』の編集刊行などを通し、新仏教対旧仏教、または顕密仏教対異端派といった二項対立的な見方を脱却し中世禅を捉えなおす必要を指摘してきた著者の研究の集大成となる一冊。

単行本：336 頁
出版社：臨川書店
発売日：2022 年 7 月

ISBN-13：978-4653041689
言語：日本語
定価：3,630 円（税込）



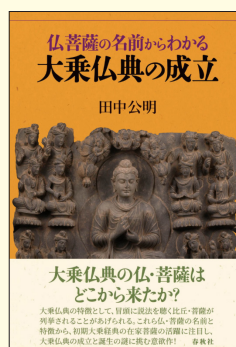
田中公明 著

『仏菩薩の名前からわかる大乘仏典の成立』

経典の冒頭で説法に参加する菩薩をあげるのは大乘経典の大きな特徴である。その菩薩名に焦点を当て、主要な大乘経典の成立史を論じ、在家菩薩の活躍から大乘仏教の成立にもふれた画期的な論考。

単行本：376 頁
出版社：春秋社
発売日：2022 年 1 月 17 日

ISBN-13：978-4393134542
言語：日本語
定価：3,300 円（税込）



新刊案内

中村元 著

新装版 構造倫理講座 『〈東洋〉の倫理』

仏典から学ぶ世俗の人間関係とは。仏典に説かれた教えから、親の恩や子への義務、望ましい夫婦関係、経済活動における倫理、親友関係の条件まで、インド・中国世俗社会の人間関係に関する倫理構造を明らかにする。

単行本：256 頁 ISBN：978-4-393-31308-4
出版社：春秋社 言語：日本語
発売日：2021 年 12 月 15 日 定価：2,970 円（税込）



中村元 著

新装版 構造倫理講座 II 『〈生きる道〉の倫理』

数ある仏典のなかから選りすぐりの名言に、仏教が何を苦しみとし、何を苦しみの原因とし、苦しみのなかでどう生きるべきとしたかを語らせる。仏典の名言の構造的・体系的解釈に挑み、仏教の生に対する倫理構造を明らかにした『仏教概論』。

単行本：312 頁 ISBN-13：978-4-393313091
出版社：春秋社 言語：日本語
発売日：2021 年 12 月 15 日 定価：2,970 円（税込）



中村元 著

新装版 構造倫理講座 III 『〈生命〉の倫理』

生命とは何であるか？何のためにあるのか？生命の倫理構造をインド哲学だけでなく、ギリシャ哲学やベルクソン、ラッセル、ショーペンハウアーやライプニッツなどの西洋哲学も駆使して探究する。魂、身体、個人と生命の関係を辿って分かる生命の尊さとは。

単行本：312 頁 ISBN-13：978-393313107
出版社：春秋社 言語：日本語
発売日：2021 年 12 月 15 日 定価：2,970 円（税込）



田上大秀 著

『ブッダ臨終の説法』 完訳 大般涅槃経 (2)

これまで漢訳『涅槃経』を現代語に抄訳したものはあったが、全訳した例はないのではないだろうか。本書は全四十巻『涅槃経』の第一巻から第十巻までの現代語訳である。十巻区切りで刊行し、全四冊で完結することになる。

単行本：404 頁 ISBN-13：978-4804614380
出版社：大法輪閣 言語：日本語
発売日：2022 年 5 月 30 日 定価：2,640 円（税込）

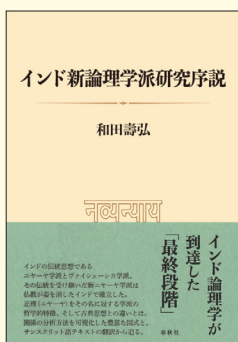


和田壽弘 著

『インド新論理学派研究序説』

インド哲学六派であるニヤーヤとヴァイシェシカの伝統を受け継ぐ形で 14 世紀に確立された「新ニヤーヤ学派」。日本語文献で単独で扱われることの少なかったその学派の特徴を、事物の関係における特有の述語の使われ方に着目して図式化し説明する。

単行本：272 頁 ISBN-13：978-4393112809
出版社：春秋社 言語：日本語
発売日：2022 年 1 月 28 日 定価：22,000 円（税込）

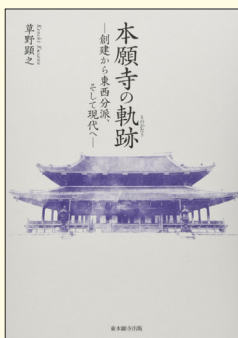


草野顕之 著

『本願寺の軌跡－創建から東西分派、そして現代へ－』

親鸞聖人の示寂後、京都・東山の地に建てられたお墓所、大谷廟堂。その小さなお堂が、一体どのようにして巨大な両堂を有する現在の真宗本廟（東本願寺）へと発展したのか…？真宗の教えに生き、護り伝えんとする人々の志願に満ちた 750 年の軌跡をたどる。

単行本：88 頁 ISBN-13：978-4834106374
出版社：東本願寺出版 言語：日本語
発売日：2021 年 10 月 10 日 定価：1,540 円（税込）



事務局通信

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ち申し上げております。尚、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受けた「公益財団法人」であり、さらに、令和2年3月27日に「税額控除」対象法人の要件を満たす証明書を内閣府より受けましたので、上記（1）（2）の一般ご寄付及び維持会賛助会の会費は、税制上の優遇措置を受けられます。①「所得控除」②「税額控除」のいずれか減税効果の高い方を選択できます。

多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶専任研究員紹介、書籍案内
- ▶公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

（スマートフォン対応）

東方学院

検索

- ▶東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和4年度前期号（通号第40号）

令和4年10月7日発行

【編集／発行】公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局（東京）

編集責任者：釈悟震

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082